

厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)
分担研究報告書

京都府下脳卒中診療状況への Covid-19 の影響に関する研究
研究分担者 (宮本享 京都大学大学院医学研究科脳神経外科 教授)

研究要旨

京都府下で脳卒中診療を行う主要施設 12 施設の 2019～2021 年の脳卒中治療件数の年次推移を検討した。脳梗塞および脳出血治療件数は 2020 年に微減傾向であったが、2021 年には 2019 年比 1.09, 1.22 に復調していた。Covid-19 流行により大きく影響を受けない搬送体制や治療施設の集約化が進んでいるものと推測される。

A. 研究目的

京都府下で脳卒中診療を行う主要施設 15 病院より 2021 年 1 月から 2021 年 12 月までの毎月の脳卒中疾患別の治療症例数を取得し、2018～2021 年の年次推移を疾患毎に解析した。

B. 研究方法

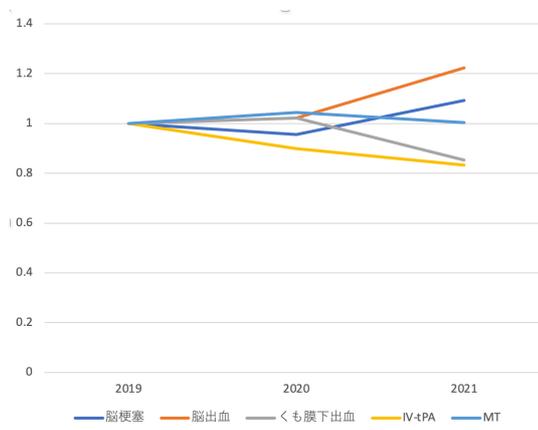
京都府下15病院より機械的血栓回収術(MT)、tPA 静注療法(tPA)、くも膜下出血(SAH)、脳内出血(IC H)、脳梗塞(CI)の月ごとの件数を取得した。2018-2021年にかけての年次推移を検討するため、3年間の治療件数を取得済みの12施設に限定して治療件数を比較した。

(倫理面への配慮)

取得データは治療件数のみで、具体的な治療内容や症例データは依頼していない。

C. 研究結果

2019年(Covid19流行前)の総治療件数を1として、2020年および2021年の件数比を脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、IV-tPA、MT別に示す。脳梗塞入院件数は2019年で2683件であり、2020年、2021年の件数比はそれぞれ0.96、1.09と2020年に微減して2021年に増加に転じている。脳出血は2019年で666件で、2020年、2021年はそれぞれ1.02、1.22とやはり2021年に増加に転じている。くも膜下出血は2019年で224件で、2020年、2021年は1.02、0.85と減少した。IV-tPAは2019年で216件であり、2020年、2021年で0.90、0.83とやはり減少した。一方、MTは2019年で296件で、2020年、2021年で1.04、1.00とほぼ横ばいであった。



D. 考察

脳梗塞および脳出血の入院件数はいずれも2020年に微減して2021年に増加に転じている。Covid-19流行による受診控えや搬送困難で減少した入院件数が増加に転じたことは、救急搬送体制の改善によるものと推測される。このほか、日本脳卒中学会による primary stroke center (PSC)の認定が進み、脳卒中の搬送先が集約化されていることも一因と考えられる。

一方、IV-tPA件数が徐々に減少していることは注目に値する。2021年に国内外でtPAスキップの有効性を示唆する報告が相次いだことも一因かもしれない。MT件数はほぼ横ばいであり、すでにMTは実施施設が集約化されており、Covid-19の流行に大きく影響されない体制が整備されているものと思われる。

E. 結論

京都府下の脳卒中治療件数はCovid-19流行により大きく影響を受けた2020年から2021年にかけて復調に兆しを見せており、Covid-19流行に大きく影

響されない救急搬送体制の改善や脳卒中治療施設の集約化が貢献していると示唆された。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

G. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし